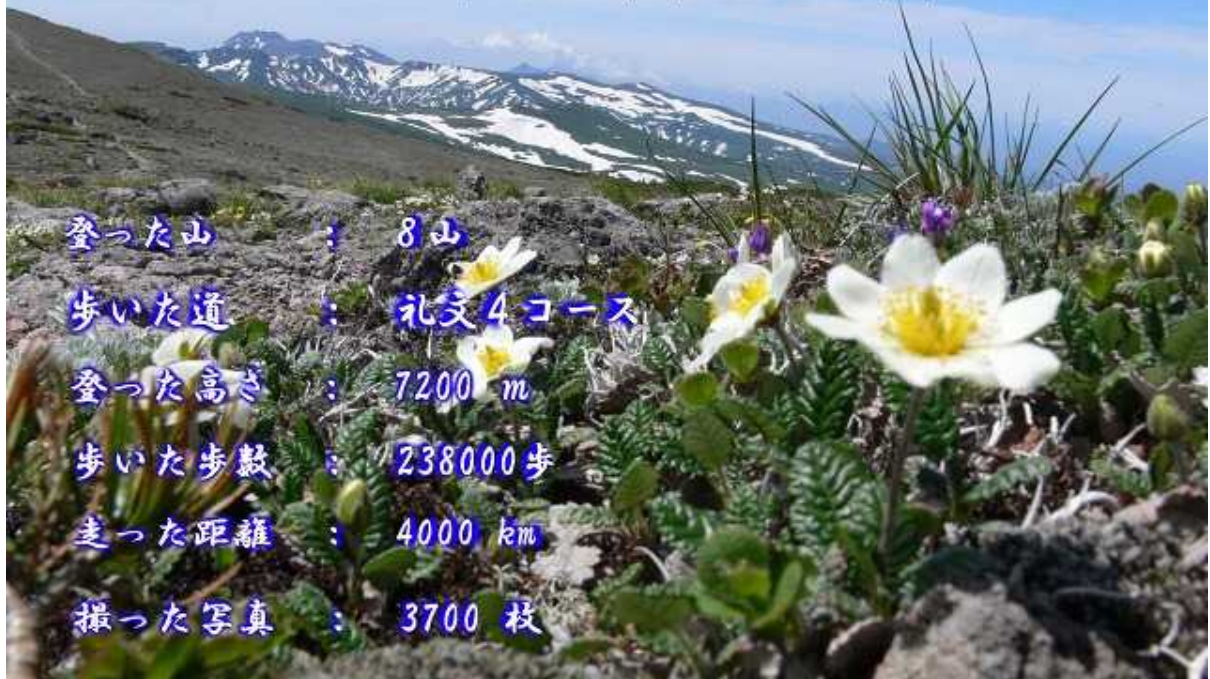


北海道山紀行 2009

2009年6月23日(日)~7月25日(土)



北海道山紀行 2009

今年も北海道山紀行の時期がやってきました。一昨年は6月中旬から7月、昨年は8月に行きましたが今年は6月末から8月までの予定で出かけました。今年の北海道は異常気象の影響で雨の日が多く、おまけに低温注意報が出っぱなしで、朝は11~15℃、昼間でも20℃前後という寒い日の連続で、長袖にジャンパーを着込み、車はヒーターをつけて走るありさまでした。たまに晴れて日が差すとやはり真夏の太陽で汗ばむほどの暑さになりますが、それも二日と続かず、翌日は寒い雨の日がくるという今年の北海道でした。それでもなんとか晴れ間を見つけて北海道の山と礼文島のトレッキングを行いました。後半は天気回復が期待できないので、昨年と同じく道南の山をあきらめて途中で帰宅しました。

ここでは出かけるまでの準備の話と、山紀行の足取りを、かいつまんで報告いたします。

車の準備と宿泊地

今年で東北の山紀行を含めてもう4回目になりますので、車の改造も徐々に完成度を高めてきて、かなり居住性の良い物になりました。そのため山小屋の雑魚寝よりはよっぽど住み心地がよく、今回は道の駅が不都合なところ以外は全て車中泊としましたが全く問題なく、自由な行動がとれて最高でした。

○車の改造・今回のポイント

- ・基本的には昨年と同じですが、ケースを1個追加してその上に板を張り、ベッドスペースを広げたため寝心地が格段に向上したとともに、昼間は寝具を畳んだ板の部分が、作業台や食卓に使えて便利でした。
- ・天井に棚を付けたのですが、これは天井が低くなり居住性が悪いので次回は撤去します。
- ・今年のように雨の日が続くと食事の時結構苦勞するので、今後は雨対策を研究します。



今年の車内



昨年の車内

○宿泊地

・例年通り基本的に道の駅です。北海道の道の駅は毎年2,3ヶ所増えていますし設備もどんどん良くなっています。毎年来ていると言う常連客が大勢いて、いろいろ情報を得たり、旅や故郷の話に花が咲きます。関西や四国・九州の車が多く「我々は定年になったらゆっくり夫婦で北海道を旅するのが夢なんだ」とのこと。だいたい1~2ヶ月ふらふら北海道を回っているようです。今年は高速道路料金が1000円になったので、本州を車で縦断して来たという人も多くいました。

・道の駅では炊事場付きの公園を隣接しているところもあり、炊事、洗濯が出来て大変便利です。独立して設置されている公営のキャンプ場が各地にあります。殆どが有料で、無料のキャンプ場もいくつかあるようです。

○出発

・昨年と同じく新潟港からフェリーに乗って小樽に向かいました。我が家から新潟まで高速道路料金が1000円というのが大変助かりました。今年は自衛隊の団体が車両とともに同舟だったので大変混雑して賑やかな船旅でした。

一休みしてから第二展望台へ急ぐ。第二展望台から先は十勝沖地震で登山道が崩壊したため通行禁止、ここから先は行けない。なんとここに「恵庭岳山頂 1319.7m」の標識板をもってきて木の枝と岩にロープでぶら下げている。下山する神戸のご夫婦とは途中ですれ違い頂上（第二展望台）には私一人、20分位居たが誰も来なかった。とにかく小石ごろごろの悪路をロープ頼りに必死に下って急坂を征し、そのあと花の多い林間の気持ちいい緩斜面を歩いて無事下山した。

*翌日に予定した**風不死岳**は雨のため登山中止、そして翌々日予定の**楽古岳**は登山口への道が通行止めになっていて登ることが出来なかった。

②「アポイ岳」(810.6m) 7月2日(木) 曇



<エズルリムラサキの花(幌満)>

・一昨年にも登ったが今回は前回行かなかった幌満の花畑をまわってみた。あいにくの曇り空で、雨は降らなかったが霧で展望は殆ど無かった。珍しい花に出会うかと思ったが、一昨年と時期が同じなのであまり変わり映えはなかったが、エズルリムラサキ、アポイゼキショウ、アポイタチツボスミレなどに出会えた。今年ヒダカソウは全山で3株、そのうち花を付けたのはたったの1株だったそうで、絶滅が確実にされたようです。心ない人たちの盗掘が招いた悲劇です。

③「摩周岳(カムイヌプリ)」(857m) 7月4日(土) 霧

・摩周湖の展望台から眺めると対岸に聳える尖った山・カムイヌプリは見るたびに登ってみたいなと思っていた山だった。今回はそのチャンスを得て登ったが、あいにくの霧で眺望は得られなかった。標高差は300m位でたいしたことは無いが、摩周湖の湖岸の尾根道を登り下りを繰り返しての片道7km、その上蚊の大群がお出迎え、立ち止まると真っ黒になるほど身体に群がるので、写真を撮ることも休みを取ることもできない。片道2時間以上歩きっぱなしで結構きつい山だった。



<摩周岳山頂>

・山頂は湖側から風が吹いているので、やっとな蚊の襲撃から解放されゆっくり休むことが出来た。山頂はごく狭く荒れて切り立っていてかなり危険な状態だがエゾツツジ、ヨツバシオガマ、キクバクワガタなどが咲き乱れ天の楽園という感じ。帰り道では霧も晴れて今歩いてきた尾根道が摩周湖に美しく映えて見えた。

④「東ヌプカウシヌプリ」(1252m)

7月6日(月) 晴



<東ヌプカウシヌプリ山頂>

・大雪山へ登るため層雲峡入る道の途中の然別湖周辺には手軽な山が色々ある。去年は白雲山に登ったが、今年は東ヌプカウシヌプリを登ってみた。片道1時間もかからないような丘見たいな山で、アイヌ語では「野原の上にいらっしゃる山」という意味だそう。白樺峠の道端に車を止め立派な「登山口の標識」から草原の踏み分け道を登りに入る。山頂まで針葉樹林帯や広葉樹林帯をあるいて最後

はダケカンバ林の中を快適に歩く。山頂からは農耕地が延々と海のように広がる十勝平野とその向こうに聳える日高山脈の眺めがすばらしい。花も意外に多く、ハクサンチドリ、ミヤマオダマキ、ゴゼンタチバナ、ツマトリソウなどなどハマナスやイソツツジも咲いていた。

⑤「大雪山・緑岳」(2019.5m)

7月7日(火) 快晴

・一昨年は赤岳から白雲岳、去年は黒岳から北海岳と大雪山の山を登ったが、今年は緑岳から小泉岳を歩いた。大雪山は毎年来ているがいつも天気が良く、今年も快晴で迎えてくれた。



<お花畑は残雪でいっぱい>

つながっている。(今年は春先が低温だったため雪解けが2週間くらい遅れているという。)トレースがはっきりしていない上に何本もついているのでルートを見失い、ルート探しに

朝5時半過ぎに一番乗りで登り始めた。第一お花畑は一面の雪の下で当然花は全くない。雪解けの道際にエゾコザクラが数輪花を咲かせていた。次の第二お花畑も雪の下で、第一お花畑と第二お花畑が雪渓で



<道案内のおじさん>

1時間近くも時間をロスしてしまった。(恥ずかしながら紅いベンガラのマークを辿ってゆけばそれが雪渓上のルートだと言うことをあとで知った。) とにかく雲一つない快晴で雪渓の上、サングラスを忘れたので目をやられるのではないかと心配したが無事だった。



<トムラウシへ続く稜線がくっきり>

・山頂への岩場を登るにつれてだんだんと視界が開けてくる。トムラウシとそこへつながる稜線が手に取るようにくっきりと見え、緑岳の裏側に隠れて見えなかった白雲岳から旭岳方面が見えだし、山頂では 360 度の展望が開けた。北海道は本当に人が少ない、山頂に私ただ一人、こんなにすばらしい眺めを独り占めだ。



<ホソバウルップソウ>



<チョウノスケソ>

・小泉岳への尾根道ではホソバウルップソウ、エゾオヤマノエンドウ、イワウメが咲き乱れ、ふと目を下ろすとチョウノスケソウが数株満開の花を咲かせていた。

小泉岳方面を往復してから来た道を下りについた。

⑥「天塩岳」(1557.6m) 7月9日(木)

強風・霧

・昨夜は満点の星空、今日はすばらしい晴天かと思ったのだが、朝起きるとどんより曇ってその上強風が吹き荒れている。天気予報では昼間は晴れ間が出るという。強風のため雲の流れは速く、雲が薄くなったり厚くなったりで変化が激しいが雨は降らない。風で飛ばされるので帽子はやめタオルで頬被りして朝5時半に出発した。



<天塩岳山頂>

・結局雨こそ降られなかったが、終始濃い霧と強風の中での山行となった。山頂では吹き飛ばされないように道標にしがみついで写真を撮った。もう一度登り直さなければならない山になった。

幸か不幸か下山して駐車場に着いた途端に大雨が降り出し、這々の体で山を抜け出した。平地へ出たら結構日が差していた。

⑦「暑寒別岳」(1491.4m) 7月18日(土) 高曇り

・今年の北海道の夏は異常で、晴天が2日持たない。昨日は晴天だったのに今日は曇っている。ただ雲は高いので明るく眺望もあり雨は降りそうもない。天気は下り坂と言う。

5時前に登り始めた、早い勝ちだ。何とアプローチの長い山だろう、だらだらと3時間近く緩斜面の林の中を道を登ってゆく。おまけにここも蚊の大群が待ちかまえている。暑いのに長袖に手袋を付けて顔はハンカチで覆いながらの忍耐の登山、花も殆ど無い。八合目の

扇風岩までくるとやっとあたりが開け暑寒別岳が顔を出してくれるので気が晴れる。九合目から箸別コースとの分岐あたりまで来ると花が多くなり、蚊の襲来も少なくなる。



<暑寒別岳の代表花・マシケゲンゲ>

・マシケゲンゲ、チマギキョウ、シナノキンバイ、エゾウサギギクなど写真を撮るのに夢中になっているうちに雲が湧いてきてあっという

間に山頂が霧で覆われてしまった。結局山頂での写真には周りの山は写らなかった。

昨年登った南暑寒岳方面を眺めたかったがそれはかなわなかった。この山ももう一度今度は箸別コースを登り直そうかと思う。



<花の写真を撮っているうちに雲が>

⑧「夕張岳」(1668m) 7月21日(火) 高曇り

・今回の山紀行最後の山となった。暑寒別岳と同じように、昨日は晴れていたのに今日は高曇りで、眺望はあるが日は差していない。かえって暑くなくて良いかもしれない。天気予報では午後から崩れるという。とにかく午前中に登ってしまおうと4時半に飛び出した。誰もいない静かな登山道をまず冷水コースに入って登る。

天気が気になり気が焦るのでペースは早い。
2時間で望岳台に立った。
芦別岳を眼前に夕張山地の山々が雲海の上に
頭を出して連なっている。



<シロウマアサツキ>

・シナノキンバイの派手な花が一杯だと思えば
地味なシロウマアサツキが一面に咲いていたり、
足下にはミヤマキスミレやムシトリスミレ、ウ
メバチソウなどがひっそりと咲いている。
ただ残念ながら吹き通しに群生している固有種
ユウバリソウは花が終わった直後で穂だけにな
っており、ユキバヒゴタイの花はまだ堅い蕾で
咲いていなかった。



<望岳台から芦別岳方面>

・前原湿原から山頂まではさすが夕張岳、いろ
いろな花々が咲き乱れていてまさに疲れが
吹っ飛ぶ。



<ユウバリソウには少し遅かった>

・ここでも写真を撮っているうちに雲が湧きだ
し、山頂に着いた8時半にはすっかり雲の中。
望岳台から前原湿原とずっと芦別岳を眺めなが
ら歩いてきたが、山頂に立ったときには芦別岳
とそこから続く夕張山地を眺めることは出来な
かった。

・下りは馬の背コースを特急で下った。登ってくるパーティーに何組も会ったが、気の毒に
霧の中の登山だ。やはり山は早出が勝ちだ。
・でもユウバリソウをはじめ夕張岳で見られるはずのいろいろな見たい花が見られなかった
ので時期をずらしてまた出直す山の一つになった。

* 礼文島を歩きまわった話 *

・今回は礼文島にフェリーで車を運び、5日間滞在した。「香深井の北に良い駐車場がある」という情報を得ていたので探してみたら、「駐車公園」なるトイレ完備のまさに良い駐車場があったので、そこに4泊した。同じような車が数台は止まっていたいろいろ話しも弾み、今年はほっけを一匹もらう羽目になった。もっと居ようかと思ったが天気が下り坂だと云うことなので5日間で引き上げた。

① 4時間コース 7月11日(土) 晴

・どんよりと雲の厚い稚内港を7時半に出航、フェリーは満員の乗客を乗せて(車は6台)穏やかな海を快走し、これまたどんよりと曇って今にも雨の降り出しそうな礼文島・香深港へ9時半に入港した。

さてこれからどうやって過ごすか、天気も良くないし、まずねぐらを探さなければ。案内所でコンビニがあることを確認してまず一安心。風呂は香深と船泊にそれぞれ町営の銭湯があることは確かめてある。この秋完成予定の立派な日帰り温泉「うすゆきの湯」が香深港横に建設中、宿泊施設もあるらしい。・話しに聞いた「駐車公園」は香深井のそばらしい、とにかくまだ行ったことのないスコトン岬を目指して北上してみることにした。

今にも降りそうな曇天の下を北上、まずコンビニ・セイコーマートを確認、次に香深井の先で「駐車公園」を確認。10数台止まれる立派な駐車場にトイレが完備、これなら十分滞在可能、これですべて準備完了。あとは礼文島内の散策の行動をするだけ。

・スコトン岬を目指して北上するにつれてだんだん空が明るくなり、北の方には青空も見えてきた。ひょっとすると思いつつスコトン岬へ。なんとそこは太陽の光が降り注ぎ、久しぶりで経験する真夏の空、青い海が広がってすばらしい景色が展開していた。

・時計を見るとま11時過ぎ、まだまだ早い。急遽4時間コースを歩くことにした。まず浜中までバスで行き西上泊・澄海岬に向け舗装道路を40分、真夏の太陽の下一人で黙々と歩く。



<今にも降り出しそうな香深に上陸>



<スコトン岬は快晴の青い空>

・澄海岬からの眺めはすばらしい。緑の断崖と青い海。ここから4時間コースの山道へ入る。笹原のアップダウンが続く絶景の海岸線を歩く。花はヨツバシオガマ、ハマナス、チシマフーロ、エゾカンゾウ、こんなものしかない。でも天気が良いので実に気持ちが良い。今朝香深についたときの曇天が嘘みたいだ。



<澄海岬の絶景>

ゴロタ岬を通過してスコトン岬に16時前に到着。快晴のもとすばらしい礼文島の初日だった。

②8時間コース 7月12日(日) 快晴

・朝起きると目の前には利尻山がくっきりと聳えて見えた。今日は快晴だ!「駐車公園」は利尻山を真正面に見るすばらしい所にあっただが、昨日はすっぽりと霧に覆われていたのでそれが分からなかった。



<目を覚ますと眼前に利尻島が>

・今日は当然8時間コースを歩くことにした。香深発6:15のスコトン行きバスで浜中へ向かった。浜中でバスを下りたのは私だけだったので、たった一人の8時間コースの旅が始まった。

・昨日も歩いた浜中からの舗装道路をしばらく歩き、途中から8時間コースを左へ折れる。一昨年は霧の中を歩いたが今年は雲一つない快晴で視界を遮る物がない。ただ変化があって面白いのは前半のウエンナイまでで、後半は花も殆ど無い林道をひたすら歩くだけで面白くないので、あまり人気が無いのだろう、快晴の日曜日だというのにこのコースを歩いている人はほとんどいない。



<アナマ岩の海岸へ下る>

・まずレブンシオガマ、タカネナデシコなどが咲く内陸の草原を突っ切り、ハマナスや色とりどりのイワベンケイの咲く岸壁を下ってアナマ岩の海岸に下りる。

・海岸にはハマベンケイソウが実に美しい空色の花を鈴なりに付け、紅いレブンソウがここに咲いている。これらの花に囲まれてウエンナイのそばの海岸で一休み、昼食を取った。



<海岸にはレブンソウが咲いていた>



<ウエンナイの手前で昼食>

・レブンソウ、ハマベンケイソウは咲いていたが、一昨年アナマ岩からウエンナイ周辺で見かけたチシマゲンゲ、ネムロシオガマなどは見られなかった。どうも少し時期が遅かったようだ。



<268 ピークからの展望>

利尻島がでんと聳えて見え、足下には色とりどりの花が咲き乱れる花畑、眼下には香深港とそこに出入りするフェリーが航跡を残して走っているのが見える。

今日は最高の景色で幕を下ろした。

・スキー場の中の道を香深の街へ下り、8時間コースを終了した。
快晴に恵まれたすばらしい一日だった。

・林道を香深へむけてひたすら歩く、すると「268m ピークー市街」という道標があり左へ折れる道が付いている。若干登りがあるが香深への近道になりそうだ、一昨年はこのあたりから香深への道がいやになるほど長かった記憶があり、まよわず 268 ピークを目指して左折した。真夏の一番暑い時間帯 2 時前に最後の登りで汗を流し立ったピーク 268 は疲れも暑さも吹っ飛ばすようなすばらしい眺めが開けていた。真っ青な海原の中、真っ正面に

③礼文滝

7月13日(月)

曇

・昨日の快晴が嘘のように濃い霧に包まれて朝が明けた。今日は桃岩コースを歩こうかと思ったが、雨は降っていないが天気が悪い上に風が強いので、車で桃岩へ行くことに行くことにした。

・車がやっと通れるほどに狭い道を桃岩駐車場まで車を入れた。観光バスはとても入れないので、下の道路沿いに路上駐車して、観光客はこの道を歩いて登ってくる。今日は天気が悪い平日で、車も人も少ないから良いが、人、車が多いときはどうするのだろうか？

・強風に打たれながら桃岩まで散策路を登る。両側には数多くの花々が咲いていて、天気が良いればさぞすばらしいところだろうかと思った。道を歩いている人を道端にかき分けながら下の道まで下り猫岩へ、海岸線は霧が無く展望は良い。つぎに元地のメノウ浜、続いて地藏岩へと車でまわった。車でないとこんなに隅々まで回れない、せっかく車を運んだのだから回れるところはみんなまわろう。



でももうこの辺では行くところが無い、時間はまだ昼前だ。

<地 蔵 岩>

・よし礼文滝へ行ってみようと、急遽林道を礼文滝入口まで車を走らせた。林道はレブンウスキソウの群生地へ向かうハイカーで結構混雑している。ここでも大変申し訳ないがハイカーをかき分けて進む。レブンウスキソウの群生地を過ぎると誰もいなくなり快走、礼文滝入口へ車を止めた。いつ雨が降り出すか分からないので、急いで出発した。



<林道・滝入口>

多少アップダウンがあるがいろいろな花も咲いて

いてなかなか気持ちの良い楽しい道を約一時間半で

<礼 文 滝>

滝に到着。途中の岩場を落ちる滝では無く、最後の岩場を海岸に落ちる滝なので、結局海岸まで標高差約 170mの下りだった。期待したほど立派な滝では無かったし、雨が降りそうだし風も強いのですぐに引き返した。滝にはご夫婦が一组、帰り道では数パーティーとすれ違った。曇っていて風は強かったが結局雨に降られずにすんだ。



④桃岩コース 7月14日(火) 霧・曇

・あさ目を覚ますと昨日にもまして霧がかかっている。ただ風はおさまったようだ。今後当分天気の回復が期待できそうも無いようなので、桃岩コースを歩いてしまおうと決定。

・香深港の駐車場に車を止めて桃岩コースへ出発。入口にある巖島神社にお参りして散策路に入る。



<巖島神社にお参り>



<チシママンテマ>

・いやあ！なかなか花の多いコースだ。取っつきにチママンテマが咲いている。

一昨年はアナマ岩で見たのに今回アナマ岩では見られなかったのでラッキーだ。

・登るに従って霧の中へ突入し、昨日のような強風は無いが、桃岩、元地灯台などすべて霧の中、知床へ下りるまで視界は無かった。



<霧の桃岩>



<霧の元地灯台>



<知床でやっと雲の下へ出た>

ただ全コースとにかく花が豊富、礼文に来たらこのコースを歩かなければ話しにならないと思った。晴れていればもっとすばらしかつたろうと。



<レブンハナシノブ>



<レブンキンバイソウ>

レブンキンバイソウ、レブンハナシノブの美しい花が印象に残った。

- ・知床からは海岸のバス道を約一時間歩いて香深港の駐車場まで戻った。
全コース霧の中だったが今日も雨に降られずに歩くことが出来た。

* 今年はホッケをもらった話 *

・去年はウトロの道の駅で群馬から来ている釣り人から鮭の半身をもらって苦労したが、今年には礼文の駐車公園で徳島から来ている釣りのおじさんからホッケを一匹もらった。「煮付けにすれば旨いよ」と醤油と砂糖まで分けてくれたので、早速ぶつ切りにして煮付けを作った。これがまたうまく出来て、数日間ビールのつまみとして私を楽しませてくれた。



<今年はホッケを一匹もらった>



<旨くできたホッケの煮付け>

** 完 **